

番号	重点 目標	ビジョン実現のための重点目標と目標達成のための手段	数 値 目 標	自己 評価	評価の説明と今後の対策	学 校 運 営 協 議 会		
						意 見 等 評 価		
1	主体的・対話的な学びの推進	●ひとりひとりが問いをもつ授業や「自己調整学習」の実践		2	3	○ 校内研修では、各教員がひなたの学び・特別支援教育・自己調整学習の3分野に分かれて、授業改善に取り組んでいる。授業で「わかった・できた」と感じていると回答した生徒は84%であり、前年度より5ポイント減少しており、「わかる・できる」といった充実した授業実践に結びついていない。継続した授業改善が求められている。また、各教員の具体的な目標設定等の手立てが必要である。 ○ ICTに関しては、教員間に知識や意欲の差はあるものの、まったくタブレットやPCを使用しないといった授業は少ない。生徒のICT活用能力も向上しており、これまで以上にレベルの高いプレゼン資料や作品を作り上げている。生徒の学ぶ意欲の向上にICTは大いに寄与している。 ○ 授業のユニバーサルデザイン化の達成率は約76%であった。今後、この数値があがるように取り組んでいく。 ○ 総合的な学習の時間を通して、3年生はSDGsの課題解決、2年生は日向市のPR活動と職場体験学習、1年生はふるさと日向市の特色について考え取り組んだ。全学年緑風祭でその成果を発表した。「働くことに関心を持ち、将来の夢や職業を思い描いている」と回答した生徒は、前年度の76%から73%に減少しているものの、学校の取組は昨年同様、充実していると考えている。 ○ 「家庭学習に積極的に取り組んでいる」と回答した生徒が73%・保護者が50%、「学力を身につけている」と回答した生徒は80%・保護者が58%であった。家庭学習・学力についての保護者の肯定的回答はR4年度から減少が続けている。授業改善と合わせて大きな課題である。委員会活動やICTなど様々な視点からの改善が必要である。	➤ タブレットなどを積極的に活用している点はすばらしい。家庭にいか浸透させていくかが課題。 ➤ 家庭学習の点で、生徒さんと先生の評価の差が気になりました。 ➤ わかったと思っているが、あまり身につけていないのは家庭学習が足りないからだということでしょうか。「生徒は家庭学習に積極的に取り組んでいる」の職員の評価が17%というのは危機的な気がします。 ➤ 習熟度に応じた授業改善のさらなる成熟に期待したい。また、新たな取組として「桃太郎電鉄」教育版やNHKの番組を活用できれば、生徒の興味関心をひくことができるのではないだろうか。家庭学習への取組が低迷していることへ、どのようにアプローチすべきか考えなければならぬ。まずは学習する習慣を身につけさせなければならないので、学年に応じた目標時間設定と相応の課題提供をしてはどうでしょうか。 ➤ いろいろな回答が前年より低下していることは前年が高すぎたのかわかりませんが、気になることです。中学校を卒業してから高校から大学・専門学校・就職どの道を進んでも、自ら学ぶ事はとても大切なので、学校（授業）以外での学ぶ機会を自ら求める事を身につけておくといいな！と思いました。 ➤ ひなたの学びの中の自分で学びたいことを決定して試行錯誤して取り組み結論を導き出すということが定着してほしいと思います。将来の夢や職業を思い描いている割合が7割を超えていることは中学生としては素晴らしいと思う。	3
		●ICTの活用や学び合い・振り返りを手段とする授業や「力のつく授業」の実践	学び合い・振り返り・ICTの活用を手段として、自律した学習者の育成を目指す。授業で「わかった・できた」と実感している生徒を昨年度(89%)以上にする。	3				
		●ユニバーサルデザインの視点を取り入れた「わかる・できる授業」の実践		3				
		●キャリア教育の充実による学ぶことの意義や将来を見据えた学びの推進と家庭教育の充実	SDGsの観点から地域や世界の課題把握と探究的な学習を展開し、自分自身に何ができるかを考えさせ、将来の夢や目標を思い描く生徒を9割以上にする。 委員会活動等をとおして、家庭学習の充実に取り組み、家庭学習について肯定的な回答の割合を生徒・保護者とも8割以上にする。	3				
2	協同的な人間関係の構築	●生徒自らが課題解決を図る主体的な生徒会活動の推進	生徒が自ら課題に気づき、解決に向け行動するよう支援し、生徒会活動をさらに活性化させ、生徒の主体的活動に関する肯定的回答を9割以上にする。	3	3	○ 「生徒会活動に積極的」と回答した生徒は昨年度に比べて91%から82%へ、保護者は82%から75%に減少したが、生徒会活動への意識は全体的に高い。昨年度から生徒会担当職員が変わり、新しい展開を模索している最中でもあることから、引き続き全職員で活性化に取り組んでいく。 ○ 行事等をとおして自他を肯定する雰囲気が醸成されている。生徒会による掲示物の工夫や、学期1回の人権学習は継続して行っている。「いじめや差別を許さない」と回答した生徒は94%であった。みんなと何かすることが楽しいと感じる生徒は、どの学年も9割を超えている。 ○ 校内に「ハートフル相談室」を設置したことにより、登校日数が格段に増えた生徒がいる。継続して学校行事や生徒会活動による絆づくりに取り組んでいる。 ○ 全職員で道徳の授業を行っている。「道徳的な力を身につけようとしている」と回答した生徒の割合は93%であった。	➤ 地域の方へあいさつできる子どもさんが少なくなったような気がしています。 ➤ 日本の若者が政治に興味を示さないのは道徳教育がなされていないからだ聞いたことがあります。SNS等での誹謗中傷が目には余る昨今、インターネットを正しい情報源として使用する、絶対に加害者にならないという教育が、家庭でも学校でも必要だと思います。 ➤ 個性が尊重され情報があふれる現代においては、他方で「孤立」が課題ではないか。協働的な人間関係の構築を目標に生徒会活動、人権教育等を推進することで他者との距離感や温度差、道徳的な力を身につけてほしい。 ➤ 子ども達の居場所としての「ハートフル相談室」の設置は、同じ境遇の生徒同士と一緒に過ごすだけでも大事な時間で、それが学習機会の確保にもつながってくると良いと思う。	3
		●差別やいじめを「しない」「させない」「許さない」人権教育の推進	行事や体験活動、生徒会活動をとおして、互いの良さに気づかせると同時に、定期的に人権教育の授業を行っていく。みんなと何かすることが楽しいと感じる生徒を9割以上にする。	3				
		●生徒が安心して登校できる魅力ある学校づくり（居場所づくり、絆づくり）の推進	関係機関との連携等をとおして、全生徒・保護者の居場所づくり、絆づくりを継続し、いじめや差別を許さない立場で行動できる生徒を100%にする。	3				
		●個々の変容を促す組織的な道徳教育の実践	引き続き、全職員で実施する道徳の授業を推進し、一人一人の変容を多くの目でとらえ評価し、道徳的な力を身につけようとする生徒を9割以上にする。	3				

番号	重点 目標	ビジョン実現のための重点目標と目標達成のための手段	数 値 目 標	自己 評価	評価の説明と今後の対策	学 校 運 営 協 議 会		
						意 見 等 評 価		
3	健康的な心身の育成	●「日向メディア法」を活用したメディアコントロール力の育成	校区内の小学校と連携したメディアコントロール週間を実施する。インターネットやスマホを使う場合のルールを決めている生徒を8割以上にする。	2	3	○ メディアコントロール週間を定期テストに合わせて設定した。ルールを決めている生徒は昨年度の74%から72%に低下、職員は50%から22%に低下した。SNSによるトラブル等が今年も見受けられており、メディアの適切な利用については引き続き指導が必要。 ○ 避難訓練（地震・火災）は、自分で考えて自分の安全を守ることを意識し、内容を大幅に変更して実施した。特に地震については、新年度すぐに一週間かけて訓練を実施した。次年度も継続予定である。登下校時の交通ルールやマナーを守ると回答した生徒は99%、保護者は96%であった。しかしながら、今年度も地域の皆さんからの交通マナーに関する苦情が寄せられているほか、接触事故も起こっており、2学期後半からは学校周辺での下校指導を行っている。 ○ 適度な運動、バランスよい食事については、生徒の肯定的な回答が89%から83%に低下した。 ○ 富高小・塩見小合同の学校保健委員会で、睡眠についての講演を実施する等、効果的な睡眠についての学習を進めた。12月末に感染症による学級閉鎖が1学級1日、1月中旬に学年閉鎖を1学年3日行っている。今後も、特に学校行事・中体連・入試前は状況に応じて感染対策をする。	➤ 交通ルール等子どもたちは「守ることができている」という認識であるが、大人やドライバーからみると異なる。そのギャップの指導が大事。 ➤ 交通マナーやあいさつについては個人差があり、メディアコントロール、避難訓練、運動、食事すべて保護者の意識が高まらないと難しいと思います。 ➤ この目標に関して、実践の場は家庭や地域となります。掲げられた数値目標の達成には家庭での実践が求められており、生徒だけでなく家庭の積極的な関わりが欠かせません。子どもの成長にもっと親がかかわり（過保護ではない）共に成長する取組が必要だと感じる。 ➤ メディアについては必要なものなので、使用する時の姿勢、その後のケアなど体に影響ある事を前面に出して、我が家では言い聞かせてます。 ➤ 「規則正しい生活」「バランスのよい食事」「適度な運動」の項目の評価が昨年度から低下していることが気になる。ここが100%に近づく事が、確かな学力を身につけたり、体力を維持することにつながると思うので、なぜ低下したのかの分析をしっかりと行ってほしい。 ➤ 日向メディア法の徹底がなされるとよい。	2
		●自他の命を守るために、自分で判断して行動できる力を育む防災教育や安全教育の推進	学校以外で地震や津波が起こった場合の避難場所を家族で話し合わせ、生活の記録に全員記載させる。登下校時の交通ルールやマナーを守る生徒を9割以上にする。	3				
		●生と性を大切にし、体力向上を図る保健・食育指導の充実	適度な運動、バランスのとれた食事が実践できる生徒の割合を9割以上にする。	3				
		●規則正しい生活の確立と環境教育の充実	生活リズムを整えて、自分の健康を維持する姿勢を養う。換気・手洗いなど状況に応じて、感染予防の基本的ルールを守らせる。	3				
4	家庭・地域との連携・協働	●家庭・地域への情報発信の充実と開かれた学校づくりの推進	行事や総合的な学習の時間の発表等を公開し保護者の参観を促す。学級通信、生徒指導通信、保健便りを定期的に発行し、HPを更新する。	4	4	○ 今年度も学級通信等は定期的に発行することができている。今年は特に緑風祭の参観者数が多かった。学校HPの更新に力を入れ、4月以降のアクセス数は37万件を超えている。今後も継続していく。 ○ 授業参観等、年4回の小中合同研修会を計画的に開催できている。3校合同で学校保健委員会を開催し、睡眠についての講演をzoomで視聴することもできた。また日向中校区の小学6年生と中学1年生で牧水カルタを楽しんだ。 ○ 補助金等も活用しながら、総合的な学習の時間を進め、ひょっとこ夏祭りに出場したり、職場体験学習やふるさと学習の成果を緑風祭で発表したりできた。キャリア教育支援センターを始め、多くの地域の皆さんにご協力いただいている。こども課・児相・警察等関係機関との連携をこれまで以上に行っている。 ○ 学校運営協議会において、生徒会が昨年度からの取組みを発表し、委員からご意見をいただいた。今後は、小中一貫教育を推進する観点から、富高小・塩見小と連携した取組を行っていく。次年度は小中学校合同の学校運営協議会を開催する計画である。	➤ 地域や学校により温度差があり連携は難しい取組だと思いますが、人口減少、人手不足等により地域での自助努力は必要になってくると思います。今後の継続、推進を期待しています。 ➤ HPの積極的な更新により、アクセス数が伸びており、一つの指標として評価できる。また、小中学校が連携する取組も一定の成果を上げていると思われる。今後、さらに家庭や地域との連携を進めるためには「地域学校協働活動」との一体的な実施が必要と考える。学校が地域の情報を得て、その活動の活発化に関わることも推進していけるとよい。 ➤ 小中学合同の協議会を開催することは大変良い事だと思います。他の校区、高校と拡大していけるといいかなと思います。 ➤ 地域の方にとって、学校は自分の子どもが卒業してしまうと疎遠になってしまうので、地域に埋もれた人材を見つけて、日向中高校全体で子ども達を見守っていききたいと思う。	4
		●富高小・塩見小との連携・協働による小中一貫教育の推進	小学校との連携を重視し、年4回の合同研修会を充実させる。また、小学生と中学生の交流の場を設ける。	3				
		●地域や関係機関との連携・協働による教育活動の充実	総合的な学習の時間の学習計画に沿って、キャリア教育やふるさと学習等に取り組む。生徒指導面ではSCやSSW、市こども課、児童相談所等との連携を密にし、ケース会等を随時設け、よりよい問題解決につなげていく。	4				
		●地域の魅力を感じ、地域への貢献意欲を育む日向中学校区コミュニティスクールづくり	学校運営協議会において、生徒との意見交換の場を設け、ともに課題を共有し、解決できるように進める。	3				